

こんにちは

日本共産党

# 横浜市議団です

日本共産党  
横浜市会議員団  
2007.10.31号  
横浜市中区港町1-1(市庁舎内)  
電話 671-3032 FAX 641-7100  
E-mail: info@jcp-yokohama.com  
http://www.jcp-yokohama.com/

2006年度決算特別委員会・審議から

## 入学式に担任の先生がいない!?!

### 横浜市立学校・正規の先生毎年700人前後も不足

横浜では、学校の先生の定数不足が毎年続いています(右表)。2006年度は、市立の小・中・高・特別支援学校あわせて703人の正規教員が不足し、臨時や非常勤の先生で補充していました。それでも入学式までに充足できず、今年の4月5日の入学式の時点で、学級担任が決まらなかった小中学校は、20校を超えました。

日本共産党の大貫憲夫議員(青葉区選出)は、なぜこのようにたくさんの欠員が生じるのか、決算特別委員会・教育委員会の審議の中で、質問しました。

教育委員会は、県教育委員会が決めている教員の定数を超えてはいけないということがある上、定年前に自己都合等で退職する教員数の予想が難しいため、必要な教員数が推測しにくいこと、採用試験で定数以上に合格させて退職者が予想より

横浜市公立学校欠員数

2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
367人	596人	709人	703人	664人

少ない場合、正規の先生が定員オーバーになってしまうため、採用試験の合格者を少なめにし、不足する分については臨時と非常勤の先生で対応していると回答しました。

だからといって、毎年これ程、正規の先生が足りない状態が続くのは異常です。先生が産休や病気などで年度途中で休む場合も、代用教員がなかなか来ないという話もあります。

定年前の退職教員数も、市内児童生徒数もここ数年大きな変化はありません。正規採用の枠をもっと大幅に広げて、正規の先生の欠員を最小限にする努力が必要です。

先生不足で一番被害を受けるのは、子どもたちです。未来をにやう横浜の子どもたちのために、教育委員会はもっと真剣になるべきではないでしょうか。



## 敬老パス 見直してこれ以上の負担増はやめて

### みなさんの力を合わせて、今の制度を守りましょう

敬老パス負担増問題を考える連絡会は25日、市高齢健康福祉課に「高齢者の足を奪う敬老パス負担増は行わないこと」を求める1万3379筆の署名の要望書を提出しました。すでに提出した分も含めると1万6974筆の署名数です。連絡会では、敬老パス利用者31万人の1割にあたる3万筆以上を目標に、12月15日までに署名を集める予定です。日本共産党横浜市議団もみなさんと力を合わせて、敬老パスの負担増をやめさせるため、全力を挙げます。みなさんの署名へのご協力をお願いします。

敬老パス負担増問題を考える連絡会事務局：西区宮崎町25 社会保障推進協議会内

電話・FAX 045-241-0034